





鈴木 正義

◆安心で安全な給食づくりについて  
 問 学校給食への異物混入防止対策はどのように行われているのか。

答 国が定めた学校給食衛生管理基準に基づき、給食センターにて材料の仕入、調理においてマニュアルに基づいた確実な調理を実施し、学校においても配食に注意し、検査も実施し異物混入が無いよう取り組んでおります。

問 異物混入が発生した際の処分等の判断はどのようにされていますか。

答 給食を口にする最終段階である学校にて、健康安全を最優先に考え、不快感が無いよう配慮しつつ、過剰な廃棄はしないよう校長にて判断しております。

問 異物混入が発生した際の代替食はどのように手配されていますか。

答 問題が1クラスなどであれば、職員分を子どもたちに先に回し、職員はもう一度配送してもらうなど手配しております。

給食は食育の大切な場であると考え、食べられるものは十分大事にし

つつ、健康安全を最優先するという観点より校長等の判断にて廃棄を行うよう気を付けております。

◆妻木砂防遺産のある町さんぽ構想について

問 妻木町にて地域の歴史名所を訪ねる散策コースを設定しその中で砂防施設にも訪れ、散策を通して土砂災害に対する砂防意識を高める試みがあるそうですが、どのようなメニューにて構成されているのでしょうか。

答 国土交通省、多治見砂防国道事務所を中心に土岐市、妻木町区町会長、妻木城跡の会長、妻木町公民館長にて構成されております。

問 具体的な内容や計画を教えてください。

答 砂取遺跡や妻木城跡、妻木城土屋敷跡、崇禅寺、八幡神社の流鏑馬など歴史文化財を散策しながら砂防技術史、地域史等の価値から登録有形文化財に指定されている浦山第二砂防堰堤を含む妻木川流域の多くの砂防堰堤を気軽に楽しく体験学習できる環境の整備を目指しております。

現在は検討段階ですが、散歩コース（4コース）やキャッチフレーズ、案内看板の整備、PRツールの作成など協議、調査されると存じます。土岐市観光協会等とも連携した活動を検討していきたいと考えております。

《第5回定例会一般質問》



小関 祥子

◆持続可能な地域経済のまちづくりについて

問 4月からの消費増税やTPP交渉参加などで地域経済が壊滅的打撃を受けると言われているが、市の産業・商工業・農林業の現状をどう考えているのか。

答 平成24年度から窯業関係の業態別調査を実施し、昨年度は半製品製造業者の現況調査を実施、今年度は石膏型製造業者を対象に現況調査を実施する。駅前商店街の空き店舗調査を実施しているが、既存店舗数も減少傾向。耕作放棄地率は24・3%、地域で農業を守れない状況になっている。今年度から森林経営計画実施事業をスタートした。市内で農産物を給食センターへ平成24年度で10品目7,382kg出荷。

問 市内酪農家や養鶏業者の牛糞・鶏糞の堆肥化事業で、公園の花づくりや家庭菜園を応援する地域内循環システムができないか。県の森林・環境税の活用をどう考えているか？美濃焼活性化委員会の活動と成果は。

産業競争力強化法案で規制緩和が進めば、非正規雇用が当たり前という事になるのでは。

答 曾木町に堆肥利用組合、市の環境センターで公園などから出る苜蓿を堆肥化する事業を今年度から始めた。県の森林・環境税で、今年度はバス停7か所にベンチ、陶史の森に案内看板の改修と設置、パンフレットの作成。来年度は水辺環境整備活動、遊歩道の整備、里山の保全や県産材の活用を進めたい。

問 持続可能な循環型社会をつくるために、企業誘致だけに頼っても雇用促進につながりません。食料とエネルギーとケア、社会保障がきちんとした「FEC自給圏」が大切。さらに、公契約条例を制定して、公共事業の発注も地元企業の保護・育成で、地域住民の納めた税金が循環する仕組みをつくっては。

答 本市で入札参加者の指名には、市内業者の育成、受注機会の確保、市内経済の活性化を考慮している。条例制定については、実施自治体の成果等を参考にする必要はあるが、あえて制定は考えていない。





小栗 恒雄

◆駅前中心市街地の空洞化対策

〔問〕年々、85年続いた老舗の洋品店が完全閉鎖されました。空洞化対策に時間がかかり過ぎると、商店の明かりがまた一つ一つと消えてまいります。私はこれまでの市政に責任の部分には少しはあると思います。市長はその点、全く無いと思われませんか。

〔答〕（市長）私は、そういう問題は責任問題ではないと思っております。道路事業というのは簡単ではないということ、市街地再開発事業も簡単ではないということ、リーダーシップがあれば短期間でできるといふ問題ではありません。道路一本造るにも構想から計画から、用地買収から築造と大変長い時期が掛かります。もっと長い目で街づくりを見ていくべきかなと思っております。責任ということとは違うと思っております。

〔問〕3月の定例会で私の私案として、新庁舎を駅前に移転したらどうかという提唱をさせていただきました。新庁舎は検討してみえるけど、市長はこういうふうにするんだという

考えを基に調整するのも大事です。で市長の考えをご答弁ください。

〔答〕（市長）物事を判断したり決めたりする時には、やっぱり基礎資料がありますので、庁舎の規模や機能、予算とか時期が絡んできます。そういうものを含め、今、条件を抽出しております。平成26年2月を目処にどんな庁舎にするかいろいろな案を提出しますので、その中で皆さんに考えていただきたいと思っております。

〔問〕市長は、市長選で「常に人々が賑わう街づくりと商店街の再生や新たな誘客づくりを図ります」と公約しておられます。しかし、多くの市民から、市長の街づくりの構想が一向に見えてこないという声が聞こえてきます。市長の描いておられる今後の中心市街地の青写真や構想、そして何年までにこうやるんだということがありましたらお答えください。

〔答〕（市長）駅前をどうしようかという具体的な構想も私は作っておりませんし、ありません。一番大事なものはやっぱり基盤でありますので、社会基盤をしっかり和整備したい。あと構想としては、官が物を造るといふ時代ではなくて、民が造りやすい環境を作るといふのが私の基本的な考えでありますので、できれば駅前の土地の集約化を図って民間の投資を促したいという考えであります。

《第5回定例会一般質問》



西尾 隆久

◆少子高齢化社会の対策について

〔問〕土岐市の高齢化率は。

〔答〕土岐津町27・2%、下石町28・2%、妻木町31%、鶴里町31・3%、曾木町38・1%、駄知町34・1%、肥田町27・4%、泉町25・3%、市平均は28・4%です。

〔問〕独居世帯数は。

〔答〕土岐津町173世帯、下石町113世帯、妻木町143世帯、鶴里町37世帯、曾木町32世帯、駄知町230世帯、肥田町72世帯、泉町344世帯で、市内全体で1144世帯です。

〔問〕独居、高齢者世帯への対応は。

〔答〕民生児童委員が安否確認をしている。このほか市の事業として、配食サービス、緊急通報装置の設置、災害時用援助者支援台帳整備、高齢者生活支援事業等を通して安否の確認をしている。

〔問〕3世代同居世帯の推進について、3世代同居世帯数は。

〔答〕平成22年10月1日現在、3世代の世帯数は3114世帯です。

〔問〕定住促進奨励金を市民対象、3世代同居世帯の新築への補助金対象としては（提案）。他の自治体に例がある。

〔答〕現在の制度のまま26年度まで実施して、その効果とか課題を検証した上で施策を検討していきたい。

〔問〕定住促進奨励金の中に中学生以下の子どもがある場合1人につき5万円を加算とあるが、本市の少子化対策、話題性も含め3、4人目の出産に対し祝い金を創設しては（提案）。

〔答〕あまり実効性はないかなという感覚であるが、一度検討する。

◆斎苑美しが峰について

〔問〕本市の最近の死亡者数と美しが峰の利用件数は。

〔答〕平成20年度死亡者数626人、告別式の利用が150件、21年度死亡者656人、利用143件、22年度死亡者646人、利用78件、23年度死亡者676人、利用63件、24年度死亡者716人、利用51件、25年度上半期死亡者330人、利用13件です。

〔問〕今後の民間業者の指導的なことも含めた方向性について（提案）。

〔答〕貸し館業務としては機能している。しかし落ち込みが25年度はまた大きくなっており、検討していかねばという問題意識はある。民間業者の指導も含め検討する。